

(様式 3)

平成 2 9 年度 動物実験等に関する報告

水産大学校

項 目	報 告 内 容
1 動物実験等の実施状況	
(1) 実施件数	当該年度の実験件数の合計 6 件
(2) 使用動物種	当該年度の実験に使用した全動物種名 マウス
(3) 関係研究課題数	当該年度の全実験課題数 10 課題
(4) 実験課題	課題を順次記載 ①魚油添加品（笹かまぼこ）の機能性と魚油成分の臓器蓄積性の解析 ②肝疾患モデルマウスを用いる魚油由来成分による肝機能改善効果 ③水産機能成分（タウリン）による肝機能改善効果の研究 ④脂肪性肝疾患モデルの F x r 欠損マウスの繁殖 ⑤汎甲殻類由来トロポミオシン交叉タンパク質の抗原性評価 ⑥エビアレルゲン-オリゴ糖複合体の抗原性低減化評価 ⑦海藻由来成分による抗アレルギー・抗炎症効果（BALB/c） ⑧海藻由来成分による抗アレルギー・抗炎症効果 ⑨海藻由来成分による体内吸収・動態に関する研究 ⑩アレルギーモデル動物に対する海藻由来成分の改善作
2 点検・評価結果	
(1) 所内規程の制定	水産大学校動物実験委員会細則（平成 2 8 年 4 月 1 日制定）
(2) 動物実験委員会の設置状況・構成	○構成 委員長：校務部長 副委員長：校務部企画調整役 委員：水産経営流通学科 1 名、海洋機械工学科 1 名、食品科学科（3 名）、生物生産学 1 名（計 8 名） 開催実績：平成 3 0 年 3 月 1 9 日（月）
(3) 動物実験等の実施状況	適正な方法、設備で実施されるかどうか委員会で審査し、承認する。また、実験結果については、水産大学校代表に報告。

(4) 教育訓練等の実施	平成29年11月30日、本部で開催された「動物実験勉強会」に本校食品科学科教授と生物生産学科講師(共に委員)が出席。
(5) 実験動物の飼養等	特段問題なく飼育されていた。
(6) 総合評価	現在の国立研究開発法人水産研究・教育機構動物実験規程及び水産大学校動物実験委員会細則に照らし妥当と評価した。